

浄土思想の視点を評価

専門家が現地指導会で助言



中尊寺境内で説明を聞く齋藤教授（前列左から2人目）と稲葉室長（右隣）

来年の世界遺産登録を目指す「平泉の文化遺産」の保存管理上の課題を専門家に聞く現地指導会（県教委主催）が5月22、23日の両日、当町などで開かれました。専門家は「浄土思想の視点は優れている」と述べ、平泉の文化遺産の価値を評価。課題とされている景観問題については「今後どう解決していくのか方向性を示すことが大切」と助言しました。県教委は、今秋の国際記念物遺跡会議（イコモス）の現地調査までに方向性を示す方針です。

現地指導会は、保存管理の具体的な進め方で不足する点や課題を第三者の目から改めて明らかにし、9月をめどに策定中の「保存管理推進アクションプラン」に反映させるため県教委が開きました。今秋調査に訪れる、ユネスコの諮問機関であるイコモス委員の対応に役立てるためでもあります。

アドバイザーとして訪れたのは、文化庁OBで、日本イコモス国内委員会のメンバーの、建築や文化財保護を専門とする筑波大学院の齋藤英俊教授、東京文化財研究所国際企画情報研究室の稲葉信子室長。2人は白川郷の世界遺産登録にも尽力しています。県教委、関係3市町の職員ら約30人が参加し、指導を受けました。

初日は中尊寺、毛越寺、無量光

院跡、柳之御所遺跡、金鶏山、達谷窟を視察しています。中尊寺では北嶺執事に、指定建造物や現在まで伝承されている能などについて分かりやすく説明を受けました。毛越寺では藤里執事長から、庭園の復元整備について、現在悩んでいる松くい虫について話がありました。金鶏山では、眺望の確保が課題との指摘を受けています。達谷窟では、達谷窟別当が説明しました。

2日目は一関市の骨寺村莊園遺跡、奥州市の長者ヶ原廃寺跡、白鳥館遺跡を視察しました。

終了後の記者会見で、稲葉室長は「浄土思想に基づき、文化財や景観をつなぐ視点は、アンコール・ワットなどのように単体で浄土を表すのではなく、都市としての広がりを感じさせ、世界遺産に登録される上で重要なポイント」と高く評価しました。

その上で、個々の史跡を結び、バッファゾーンの景観保全の大切さを指摘。最近の世界遺産は景観が重視されている。関係市町の景観条例を有効性のあるものにするためには、景観をどう守っていくのか行政、事業者、住民との間に相互理解と協力が必要である。そのためにも、学習会や意見交換会は不可欠」と助言しました。

齋藤教授は「交通の要衝地という地勢から、平泉には国道4号やJR東北本線、高速道路、鉄塔など、青森までつながる幹線が多数ある。その中で、金鶏山にある送電線の鉄塔が景観の障害になる」との認識を示した上で、県が東北電力など関係者と協議を進めている状況であることを示し、今後どう解決していくのか方向性を示すことが大

切」と助言しました。

平泉バイパスと堤防建設については「住民の生活と、重要な遺産を守るために、ルートまで変更してきた経緯がある。水害を防ぐこともできるし、渋滞も解消され、さらには現在の国道の交通量も減ることから、中尊寺での騒音もなくなるだろう」との認識を示し、平泉では過去の公共工事においても、さまざまな努力をして遺産を守ってきた。無量光院跡を分断するJR東北本線も問題視されているが、ルート選定に当たっては、本堂礎石を避けるように配慮されている。東北自動車道も、毛越寺と中尊寺を守るため、ルートを西に変更し、関山丘陵をトンネルで通過することになった」と説明。「これら現在に必要な不可欠なインフラ整備を、マイナスイメージとしてとらえるのではなく、積極的に守ってきた結果、現在に至ったと、プラスに表現すべき」と助言しました。

稲葉室長は、景観課題について「県が策定を進めている保存管理推進アクションプランの中で短期・中期の方向性を示し、将来にわたる保存管理として行っていくべきだ」と訴えました。



記者会見で課題を指摘する稲葉室長と齋藤教授

県教委生涯学習文化課の齋藤憲一郎総括課長は「課題を認識でき、大変有意義な指導会だった。今後はバッファゾーンの景観条例の趣旨を住民に理解していただき、地域一体となった保存管理の機運を醸成していきたい」と述べました。鉄塔については「移設や埋設など、将来的にどうすれば理解を得られるか、今秋のイコモスの調査までに検討し、方針を決めたい」と述べ、9月までにまとめるアクションプランで対応を示す考えを示しました。

文化審答申

倉町遺跡 国史跡へ

世界遺産登録に弾み

文化審議会文化財分科会は5月18日、倉町遺跡を国史跡に指定するよう文部科学相に答申しました。同遺跡は、柳之御所・平泉遺跡群に含まれます。同遺跡で確認されている2棟の建物跡は、奥州藤原氏の宝物館だったとみられています。

近年発見された遺跡は、この倉町の一部だったとみられます。

追加指定が答申された倉町遺跡の面積は、1万982平方メートル。柳之御所・平泉遺跡群としては4カ所目。旧観自在王院庭園の南側に位置し、平成14、17年度の調査で太さ30センチの柱を持つ大型建物跡（東西12・5メートル、南北6メートル）が1棟ずつ発見されました。

歴史書「吾妻鏡」には、倉町を造り並べる。また数十の高屋を建つ」と記されており、観自在王院の南側に高屋の建つ倉町が存在したことを表しています。

高橋町長のコメント 近年の発掘調査で大型建物や道路の跡が発見され、改めてこの地域の重みが実感されました。世界遺産登録に向けても大きな弾みになります。



14年度の発掘調査で出土した大型建物跡